

JIM-NET

Annual Report

2022

年次報告書



JIM-NET
الشبكة الطبية اليابانية العراقية

イラク戦争から20年が経ち、JIM-NETの役割を再確認しています。

代表理事 鎌田 實



日本では新型コロナウイルスのこれまでの「2類相当」から季節性インフルエンザなどと同じ「5類」に移行され、さまざまな規制が緩和されました。これまで「普通」と考えていた生活に戻る中で、コロナ禍の3年間で、いかに私たちの生活を大きく変えてしまったかを痛感しています。日々生きることが精一杯でコロナウイルスを怖がる余裕がなかったと話していたイラクやシリアの人々にとって、普通の暮らしが戻ってきました。ただ、この3年間で生活が苦しくなった上に、世界的な物価高の影響は僕たちの活動地にも波及しており、物価高が進み、人々の生活は厳しさを増しています。

2023年は、イラク戦争が始まってから20年目です。少しでもイラクのこと、シリアのことに思いを馳せてほしいという願いから、3月に神保町で『JUSTPEACE！～イラク戦争から20年・写真と絵画で辿る過去と現在、そして…。』と題した企画展を開催しました。俳優の斉藤とも子さんによる司会のもと、いつも温かい応援をくださる音楽評論家の湯川れい子さん、歌手の加藤登紀子さん、千葉大学教授の酒井啓子先生と共に、僕もトークイベントに登壇しました。酒井先生からは、「20年前のイラク戦争、あれをちゃんと反省したのだろうか？」という問題提起がされました。ある国を攻撃してその国を政権交代しようとした背景に何があって、何故攻撃という行動に出ざるを得なかったのか？そしてそれが何をもたらしたのか？単に戦争だけの問題だけではなくて、後遺症やそれによって受けた社会の傷跡など、一体何を戦争は残すのか？そんなことを

想像できなくてはならない。このことが、JIM-NETが活動している原点なんだと思います。

皆さんに応援していただいているJIM-NETハウスで学び、遊ぶ子どもたちのうち、8名がもともと通っていた学校に戻ることができました。その様子の写真を見て、涙が出るくらい感激しました。がんの子どもたちの親御さんやご家族に対するピアサポートを本格化させていますが、日本からの専門医師を派遣し、さまざまなアドバイスをしてもらいました。現地のスタッフ達はとてもありがたかったと話しています。同じ悩みを抱えている親御さん同士の交流や、そうした場の提供はとても大事なことです。

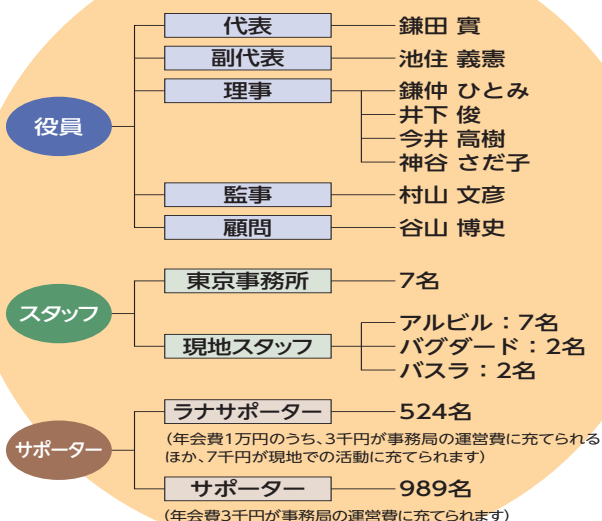
トルコ・シリアでは今年2月、大地震が起き、今も数百万人の人が避難生活をしています。JIM-NETはこれまでもシリアで活動していますが、社会が分断しているシリアでは、地震救援でも支援物資が入りにくい地域もあります。そういう困難な地域をあえて選び、シリアの現地団体を通じて約15,000US\$分の医薬品、日用品を第一弾としてトルコ国境付近のアレッポ県郊外に届けました。5月に現地スタッフのチームがシリアに渡航したところ、避難民キャンプでは外部からの支援がほとんど入っていない地域もあったと報告してくれました。これからもそういった地域に住む人々をサポートしていきます。

チョコ募金は14万個に設定し、たくさんのお申込みのお陰で2月中旬に終了することができました。皆さん、チョコ募金の時期が来るのを楽しみにしてくれているという声を多く聞きますし、継続いただいている大口寄付者の方からは4,000個のお申込みがあり、福島とイラクの子どもたちに配って欲しいとのお申し出がありました。ありがたいことです。

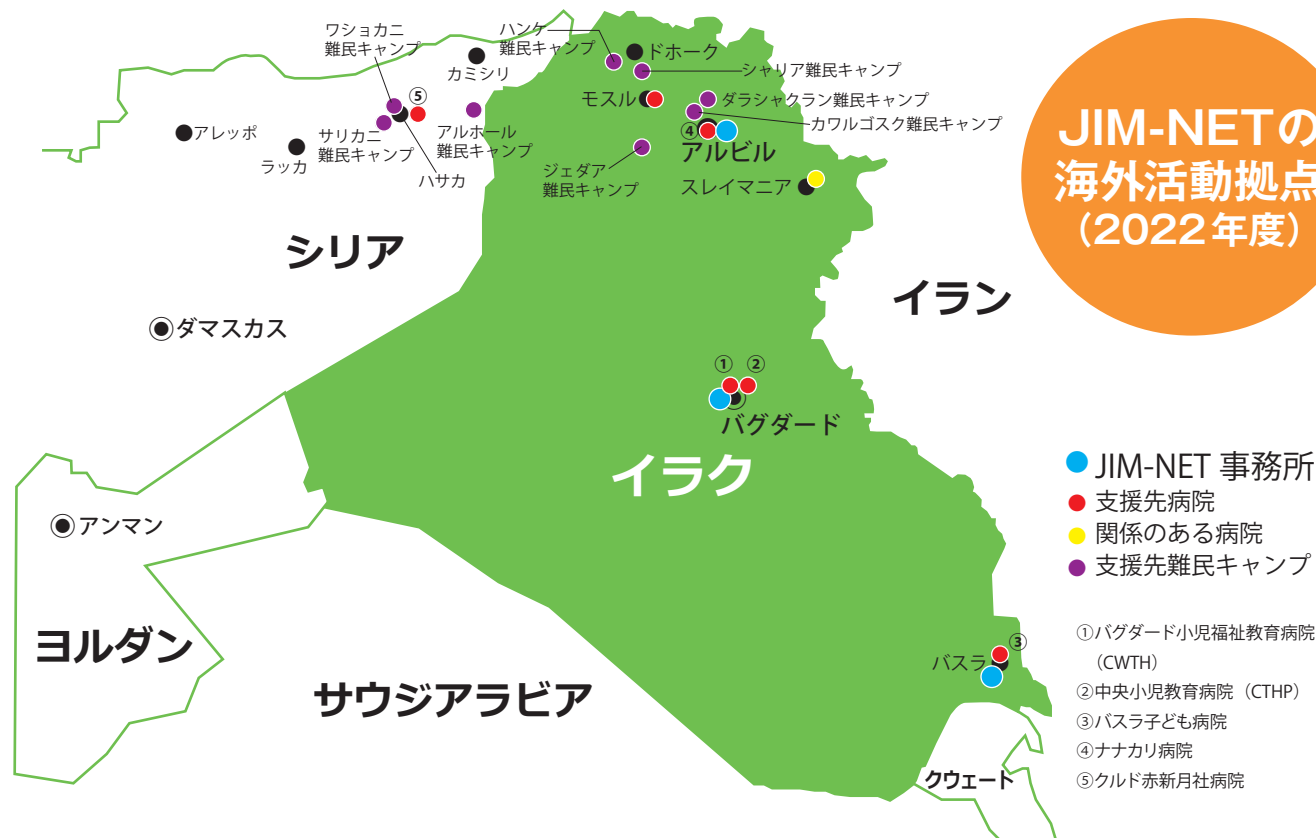
また、株式会社キャメル珈琲様のご協力で「COFFEE for PEACE！」と名付けたドリップコーヒーの取り組みも2年目です。継続できて僕も嬉しいです。このパッケージにも子どもたちの絵を使い、現地での取り組みを知ってもらおうようにしています。

世界では不安定要素が多くなる一方です。僕はとても不安です。そんな中でも、イラクやシリア、福島の支援を続けられているのは皆様の応援のお陰です。心から感謝しています。もっともっと僕たちの取り組みを多くの人々の知ってもらい平和の輪を広げていきたいと思っています。引き続き変わらぬご支援、どうぞよろしくお願いいたします。

組織体制 (2023年3月現在)



JIM-NETの 海外活動拠点 (2022年度)



JIM-NETのあゆみ

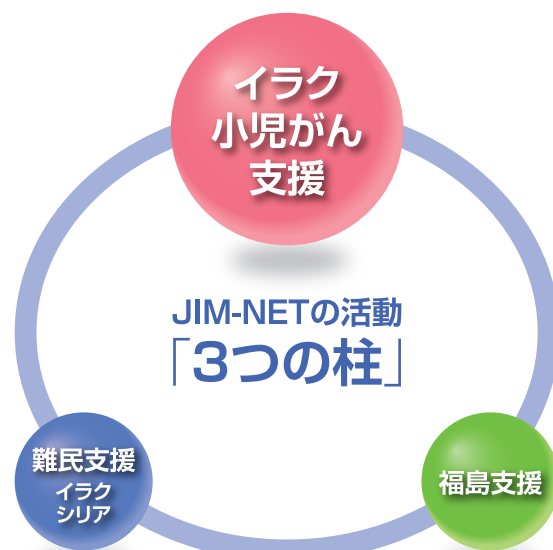
1990年代半ば、イラクの子どもたちの間で、がん・白血病の発症率が急激に増加し始めました。1991年の湾岸戦争時に、米軍が使用した劣化ウラン弾の放射能の影響だと考えられます。しかし、湾岸戦争後の経済制裁による抗がん剤や医療機器の輸入制限のため、適切な治療が受けられず、助かるはずの多くの子どもたちが命を失ってしまいました。

2003年のイラク戦争で、米軍は再び劣化ウラン弾を使用しました。イラクの病院は破壊され疲弊し、保健行政も機能不全に陥り、増え続ける小児がん・白血病の子どもたちにとって危機的な状況でした。2004年6月、来日したバスラ産科小児科病院のジャナン医師と日本の支援者たちの間で、子どもたちの窮状を救うための話し合いがもたれました。そして、より効率的で継続的な支援体制の確立をめざし、NGO、市民グループ、日本とイラクの医師たちが「日本イラク医療支援ネットワーク (JIM-NET)」を立ち上げました。以降、任意団体として7年あまり活動した後、2012年2月1日、特定非営利活動法人 (NPO 法人) となりました。

2011年3月11日に発生した東日本大震災の直後には、宮城県石巻市を中心に、医療支援や仮設風呂の提供を行いました。地震と津波で福島第一原子力発電所の事故が起きた福島県にて、放射能の被害を最小限に留めるべく、除染や保養の支援を継続して行いました。また、2012年4月からは、紛争が激化したシリアから大量の難民が発生したことを受け、イラクとヨルダンにて緊急支援を開始しました。

2019年度には、イラクで初となる小児がん総合支援施設 (通称：JIM-NETハウス) がアルビルのナナカリ病院敷地内に完成し、がんの子どもたちへの教育サポート、患者家族からの相談受付、宿泊場所の提供など心理社会的サポートが本格的に開始されました。

JIM-NETは、イラクの小児がんの子どもたちが自国できちんと治療を受けられるようになり、先進国並みの生存率となるように支援を続けます。福島支援活動も継続し、放射能汚染から子どもたちの健康を護る活動を行う団体への支援を実施していきます。また、シリア難民支援とイラク国内避難民支援にも継続して取り組んでいきます。



小児がん支援

概要

2022年度は、イラク全体としては中央政府の新政権が発足し、近年では比較的治安が安定した年となりました。一方で、一昨年10月の国民議会選挙で第1党となったサドル潮流と、マーリキー元首相率いる親イラン勢力との拮抗がバグダッドで2022年7月、8月に勃発し、南部の都市にも武力衝突が波及しました。北部のクルド自治区では、イランからのドローンやミサイル攻撃、トルコからの越境攻撃などが散発的に発生しました。世界的な物価高の影響はイラクにも波及しており、物価高が進み、人々の生活は厳しさを増しています。

また、人口約4,118万人のうち約5%が、食糧危機の状態にあるというデータもあります。このような社会情勢から、貧困患者は増加し、貧困患者支援が全く追いついていない状況です。JIM-NETハウスでは、院内学級の活動内容も充実し、2022年度は患者家族や患者に関わるスタッフを対象としたピアサポートの研修も実施しました。

2022年度はバグダードの医師を中心としたイラクの腫瘍内科の医師たちが、患者の記録をデータベース化するためにグループを作り、イラク人の医師同士で意見交換やフォームの作成を実施し、オンラインミーティングを開催しました。データ収集や記録の整理を各病院が行うことにより、イラク全体の腫瘍

内科における情報の統一が期待されます。2023年度はJIM-NET会議を再開し、データ管理の導入についても各病院で進められる予定です。



ピアサポート研修
(アルビル)



ナナカリ病院医薬品支援 (アルビル)



がんについての啓発活動 (アルビル)

こんな活動をしました

■ 医薬品支援・消耗品支援

小児がん専門病院に抗がん剤を中心とした医薬品、医療品を支援しました。

バスラ	約250万円
アルビル	約297万円

* 医薬品は、株式会社カタログハウス様、生活協同組合パルシステム東京様より、多大なご支援をいただきました。

■ JIM-NETハウス

4年目を迎えた小児がん総合支援施設「JIM-NETハウス」では、ピアサポートグループや子どもたちのケアの専門性を高めるために専門家を日本から招聘するなど、社会的心理的サポートの分野における支援を強化しています。

【教育支援】

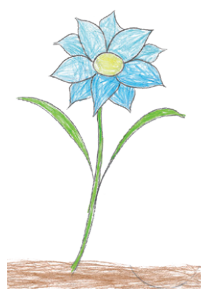
常時8～12人の子どもたちが院内学級に参加し、2022年度は8人の子どもたちが卒業し、公立や私立の学校に復学しました。一人ひとりの進捗状況に合わせてそれぞれの教科を学びました。

【ピアサポート】

日本から児童精神科医（トラウマケアの専門家）を招聘し、現場スタッフの心理ケアと子どもたちのケアに関する専門的な知見やピアサポートグループについて学びました。ピアサポートグループは7回実施し、2023年度はオンラインで現場を繋ぎ、引き続きピアサポートの充実を目指します。

【課外活動】

医師の許可のもと、治療中の子どもたちや院内学級に通う子どもたちを対象に、ピクニック、アルビル城への遠足、イリュージョンミュージアムなどの課外活動を定期的に実施しました。また、地元企業からの遊園地への招待がありました。





院内学級 (アルビル)



バスラ子ども病院にて打ち合わせ



院内学級 (バスラ)



治療中の子ども (バグダード)

患者家族は、部屋割りを調整してすべて受け入れています。

【宿泊者の受け入れ】

2021年度は4,291人(1日平均の利用者11.7人)でしたが、2022年度は5,454人(1日平均の利用者14.9人)へと増加しています。宿泊が必要な患

■ 貧困患者支援

貧困患者に対する支援として、医薬品の購入や病院まで



復学した子どものケア (アルビル)

の交通費の支援を行っています。コロナ禍や世界的な物価高の影響もあり、貧困患者家族の経済状態は悪化の一途をたどっており、アルビルにおいては支援額を増やして対応しました。

アルビル	698件 (地元の患者家族416件、国内避難民及びシリア難民家族282件)
バグダード	108件
バスラ	65件

貧困患者支援では、患者家族の生活状況を把握するために家庭訪問を実施しています。アルビルでは、20軒の家庭訪問を実施し、医薬品や検査代支払いのため、車など財産の売却や借金をする患者家族がいることも分かりました。

エリーン・ラドワン (9歳) 急性リンパ性白血病 (ALL)

シリア出身のエリーンは、2018年夏に白血病と診断され、イラクの病院で骨髄移植を受けました。経過はとても良好で、JIM-NETの院内学級で2年半ほど学び、2022年9月に地元の学校へと復学しました。院内学級に通い始めた当初は周りにうまく馴染めなかったのですが、持ち前の笑顔と明るさでクラスの人気者に！復学後も、勉強に遊びに充実した日々を送っており、クラスでの成績も優秀とのこと。



JIM-NETの 院内学級を卒業した 子どもたち

アナス・ハディエール (16歳) 急性リンパ性白血病 (ALL)

アルビル出身のアナスは、9歳の時に白血病と診断され、その後3度の手術とインドでの約4ヶ月に及ぶ治療を経て、現在も投薬による治療を行っています。JIM-NETの院内学級が開設された直後から学んでいましたが、2022年8月に卒業し、9月から地元の学校に学年を下げて復学しました。「勉強も今の自分のレベルに合っているし、大変だけど楽しいです。この学校に来る前にJIM-NETの院内学級で勉強できてよかったです」と話しています。



アルビル城へ遠足



イベント
「Back to school !」
治療を終え復学する
子どもたちを
応援



院内学級
(バスラ)



イリュージョン
ミュージアム
でワクワク。



院内学級では
テストも実施



院内学級
(アルビル)



豆を植えて、
楽しみ♡

院内学級
(アルビル)



難民支援

概要

国際機関の支援がウクライナに重点を移す中、各難民キャンプに対しての支援額も減ってきています。そのため、イラク国内の難民キャンプで暮らすシリア難民の中には、故郷に戻ることを計画する者も出てきています。しかし、故郷の社会インフラの破壊のため帰る目途が立たない人がほとんどです。

また、2022年度から現地NGOを通じたヤジディ教徒支援も開始し、多角的な視点から難民状況を捉えています。ヤジディ教徒は過激派組織イスラム国「IS」の攻撃により、故郷が徹底的に破壊され未だ先の見えない難民キャンプ暮らしを強いられています。

シリア国内では、社会の分断、経済状態の困難が続く中で、2023年2月にはトルコ・シリア大地震が発生し、両国で5万人以上が死亡し、今もなお数百万人が避難生活を強いられています。シリア国内での事業パートナーであるクルド赤新月社（KRC）を通じて医薬品、食料品の支援を開始しています。



シリア難民キャンプでのトレーニング

活動内容

■ 国内避難民・シリア難民キャンプ（イラク国内）

ダラシャ克蘭・シリア難民キャンプに対して約50万円分の乳糖不耐症の乳幼児のための特殊ミルク、おむつの支援を実施しました。妊産婦や貧困層の女性たちを集めた手工芸ワークショップを継続し、試験的に日本での販売も行いました。

また、ドホーク県に位置するヤジディ教徒国内避難民が暮らすシャリヤ難民キャンプとハンケ避難民キャンプ、ニナワ県にあるシリアからの帰還民が収容されるジェダア難民キャンプに約175万円分の医薬品を支援しました。難民キャンプで働く産婦人科医・助産師・看護師へのトレーニングでは45名が参加し、具体的な避妊方法、適切な出産間隔等について講義を行い、参加者の理解が深まりました。

■ シリア国内支援（地震被災者支援も含む）

クルド赤新月社（KRC）はトルコ・シリア大地震直後からアレッポ県とその周辺地域で食料品、日用雑貨を配布しており、現地行政と協力して家屋に住めない住民に5,000箇所の避難所を各地に設置しました。クルド赤新月社（KRC）を通じ、今回の地震の被災者の中で最も支援が届きにくい人々を対象にして約200万円の医薬品、日常品の支援をトルコ国境付近のアレッポ県郊外で実施しました。

また、通常事業としてシリアのハサカ県に位置するワショカニ・シリア国内避難民キャンプ、サリカニ・シリア国内避難民キャンプ、アルホール・シリア国内避難民キャンプ（イラク人・シリア人双方）に対して、約200万円分の医薬品を支援しました。



ダラシャ克蘭難民キャンプミルク支援



シリア地震支援



ハンケ難民キャンプ医薬品支援



シリア地震被災者支援

福島支援

2022年度も福島支援の条件に合う活動や団体に対して、公募・推薦によって選拔し、支援を実施しました。(2022年度募募集期間：2022年7月1日～12月31日)
2022年度は、以下6団体に支援しました。(五十音順、法人格名を除く)



2022年度 福島基金支援先団体一覧

団体名	事業概要	助成額
青空保育たけの子	野外保養活動のための福島から山形への往復無料送迎	¥300,000
心援隊	大阪または近県での保養活動	¥300,000
こおりやま子ども若者ネットワーク	福島県内における若者支援フォーラム開催活動	¥300,000
NO to YES	北海道での保養活動	¥300,000
みんなのデータサイト	食品・環境の放射能測定	¥300,000
日本チェルノブイリ連帯基金	食品・環境放射能測定	¥280,000
	合計	¥1,780,000

広報・イベント

【刊行物】

- ・JIM-NET便り年間4回発行
- ・アニュアルレポート1回発行

【主な開催イベント】

◆2022年

7月22日～26日	「イラクとシリアの子どもたち絵画展～JUSTPEACE！」 恵比寿・EBISU ROOM
8月23日	子どもアートフェス@練馬ココネリ
11月6日	「イラク現地駐在員帰国報告会」 出演：牧野アンドレ



絵画展の様子

◆2023年

3月16日～21日	「JUSTPEACE！ イラク戦争から20年・写真と絵画で辿る過去と現在、そして…。」 神保町・文房堂ギャラリー ●3月19日 スペシャルトーク (オンライン) 出演：湯川れい子 (音楽評論家)、加藤登紀子 (歌手)、酒井啓子 (千葉大学法政経学部教授)、斉藤とも子 (俳優)、鎌田実 (JIM-NET代表) ●3月20日 EDENトーク (オンライン) 出演：SUGIZO (作曲家、ギタリスト)、鶴田能史 (tenboデザイナー)、斉藤亮平 (JIM-NET海外事業担当)
-----------	---



チョコ募金

冬季限定で、1口550円のご寄付をくださった方に、チョコレートをお礼としてプレゼントしている募金キャンペーンです。

2022年度もたくさんの方からお申込みをいただき、無事に14万個すべて終了することができました。毎年みなさまから温かい応援のメッセージをいただき、ご支援をくださった皆様に心から感謝申し上げます。

①テーマ：『CHOCOLATE for PEACE!』

②取組個数：六花亭様のご協力により、14万個

③実施期間：2022年11月14日～2023年2月14日まで



◆チョコ募金運営協力（敬称略）

六花亭商事株式会社 / 古茂田工業株式会社 /
株式会社江連金属印刷所 /
有限会社佐賀製作所 /
有限会社山猫印刷所 /
社会福祉法人 川崎市社会事業団
KFJ多摩はなみずき /
SEO株式会社 / fushigina /
MAYUMI / S-GUMIZAWA



クルド語で「希望」を意味する名前のホズガ（享年9歳）
2020年ユーイング肉腫の診断を受け、同年12月に腹部の腫瘍除去の手術と化学療法を受けました。JIM-NETの院内学級で勉強が楽しくなり、「子どもたちの命を救う医者になりたい」と話していましたが、2022年11月に天国に旅立ちました。



収益事業

Coffee for Peace !

2021年初夏から株式会社キャメル珈琲様のご協力で子どもたちの絵がパッケージに印刷されたドリップコーヒー「Coffee for Peace !」の販売をスタートし、大変ご好評をいただきました。2022年度も継続して取組み、絵柄は2種類、各2万個を製造し、全国の皆さまに喜んでいただくことができました。

1セット：550円（税込み）うち約300円がJIM-NETの活動資金となります。



取組個装：2万個

実施期間：2022年8月1日～2023年3月31日

◆Coffee for Peace! 運営協力（敬称略）

株式会社キャメル珈琲 / 古茂田工業株式会社 /
社会福祉法人 東京都手をつなぐ育成会新宿区立高田馬場福祉作業所 /
SEO株式会社 / fushigina / MAYUMI / S-GUMIZAWA

海外事業

アルビル県を中心とした包括的小児がん患者支援

事業地：イラク・クルド自治区アルビル

対象者：約5,000人（JIM-NETハウス滞在の患者家族含む）

活動内容：JIM-NETハウス運営、医薬品支援、貧困患者支援

シリア難民・イラク国内避難民に対する緊急医療支援

事業地：イラク・シリア

対象者：約500人

活動内容：粉ミルク支援、医薬品支援、家族計画支援、医療従事者への能力向上研修

バグダード小児がん支援

事業地：イラク・バグダード

対象者：約1,000人

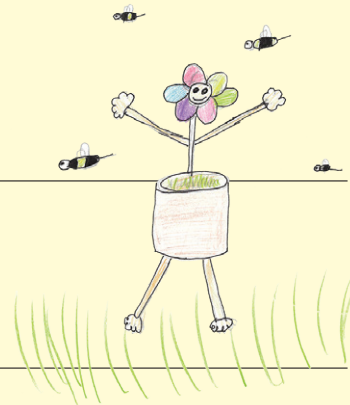
活動内容：医薬品支援、貧困患者支援、院内学級運営

バスラ小児がん支援

事業地：イラク・バグダード

対象者：約1,000人

活動内容：医薬品支援、貧困患者支援、院内学級運営



国内事業

福島事業 (福島基金)

1. 福島の子どもを対象にした活動を行っている団体の活動に対して支援を行う。
2. 2023年7月1日から公募を開始する。

チョコ募金

1. テーマ：CHOCOLATE for PEACE !
2. デザイン：イラクと日本をオンラインで繋ぎ、お絵描きワークショップを行い、子どもたちに描いてもらった絵をチョコ缶のデザインとする。
3. 取組個数：13万個
4. 受付スタート：2023年11月中旬

サポーター管理・ ファンドレイジング

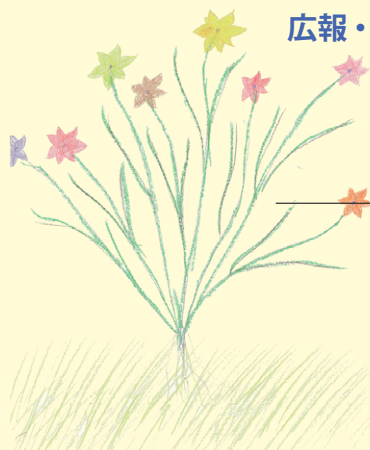
1. 不要になった物品・本の寄付、パソコン等の購入が支援につながるなど、様々な寄付方法を周知し、募金につなげる。

収益事業

1. ドリップコーヒー・COFFEE for PEACE !
9月中旬より新デザイン（1万セット）を販売スタート予定。
2. その他グッズ
イベントなどで随時販売予定。

広報・イベント

1. 広報
HPの内容の更新（写真の更新、JIM-NETヒストリーなど）
2. イベント
・報告会など各種チャリティイベントの実施。
・JIM-NET 発足 20年イベントの開催で20年を振り返る。



2022年度決算

活動計算書 2022年4月1日～2023年3月31日

I. 経常収益 (単位: 円)	
科目	決算額
受取会費	正会員受取会費 40,000
	サポーター受取会費 2,932,000
	ラナサポーター受取会費 5,100,000
	合計 8,072,000
受取寄付金	受取寄付金 27,252,031
	チョコ募金 78,933,075
	合計 106,185,106
受取助成金	890,904
合計	890,904
事業収益	自主事業収益 7,953,819
	受託事業収益(受取講演料) 30,000
	合計 7,983,819
その他収益	受取 利息 474
	雑 収 益 49,706
	受取講演料等 45,000
	合計 95,180
経常収益計	123,227,009

II. 経常費用／III. 経常外収益／IV. 経常外費用 (単位: 円)

科目	決算額
事業費	人件費(給与手当、通勤費他) 37,542,994
	売上原価 1,897,957
	旅費交通費 9,572,578
	その他費用(家賃、水道光熱費他) 21,142,840
	プロジェクト物資費 32,975,442
	ワークショップ等開催費 607,069
	寄付金原価 21,886,833
	印刷広告宣伝費(事業) 5,635,422
事業費計	131,261,135
管理費	人件費(給与手当、通勤費他) 13,803,477
	その他経費(事務所家賃他) 5,374,697
管理費計	19,178,174
経常費用計	150,439,309
経常外収益計	0
経常外費用計	702,000
当期正味財産増減額	△ 27,914,300
前期繰越正味財産額	189,313,461
次期繰越正味財産額	161,399,161

貸借対照表 2022年3月31日現在

資産の部 (単位: 円)	
科目	金額
【流動資産】	
現金・預金	150,134,075
未収金	66,266
棚卸資産	831,093
(その他流動資産)	
前払 費用	0
仮 払 金	403,420
緊急時対応準備金	11,000,000
流動資産合計	162,434,854
【固定資産】	
什器 備品	13,907
敷金	624,960
固定資産合計	638,867
資産合計	163,073,721

負債の部 (単位: 円)	
科目	金額
【流動負債】	
未 払 金	118,737
未払 費用	966,644
預 り 金	536,779
仮 受 金	52,400
負債合計	1,674,560
【正味財産】	
前期繰越正味財産額	189,313,461
当期正味財産増減額	△ 27,914,300
正味財産合計	161,399,161

監査報告書

監 査 報 告 書 INDEPENDENT AUDITOR'S REPORT
特定非営利活動法人 JIM-NET の 2022 年度決算(2022 年 4 月 1 日 - 2023 年 3 月 31 日)について、監査の結果、事業は適正に実施され、また活動計算書および貸借対照表は、一般に公正妥当と認められる会計原則に基づいて作成されていることを認める。 I have audited the financial statement of NPO JIM-NET as of March 2023 and acknowledged that revenue and expenditures for the Fiscal Year 2022 in the activity statement and balance sheet were based on generally accepted accounting principles. 日付: 2023年6月9日 監事: 村山文彦

2023年度予算

活動予算書 2023年4月1日～2024年3月31日

I. 経常収益 (単位: 円)	
科目	決算額
受取会費	正会員受取会費 70,000
	ラナサポーター受取会費 7,800,000
	合計 7,870,000
受取寄付金	受取寄付金 23,470,000
	チョコ募金 75,770,000
	合計 99,240,000
受取助成金	1,500,000
合計	1,500,000
事業収益	自主事業収益 7,525,000
	合計 7,525,000
その他収益	50,000
	合計 50,000
経常収益計	116,185,000

II. 経常費用／III. 経常外収益／IV. 経常外費用 (単位: 円)

科目	予算額
事業費	人件費(給与手当、通勤費他) 43,562,000
	旅費交通費 10,160,000
	その他費用(家賃、水道光熱費他) 11,905,000
	プロジェクト物資費 33,204,000
	ワークショップ等開催費 2,699,000
	業務委託費 2,700,000
	寄付金原価 23,210,000
	印刷広告宣伝費(事業) 6,157,000
事業費計	133,597,000
管理費	人件費(給与手当、通勤費他) 11,664,000
	その他経費(事務所家賃他) 7,864,000
管理費計	19,528,000
経常費用計	153,125,000
当期収支差額	△ 36,940,000

JIM-NET参加団体紹介

【アラブの子どもとなかよくする会】

1991年の湾岸戦争後からアラブ地域、とくにイラクの子どもたちへの支援活動を開始、1993年に会を設立されました。がんの子どもたちへの医療支援のほか、クラフト作り（アフーク・プロジェクト）を通じて患者家族の生活支援を行っています。

【株式会社カタログハウス】

カタログ雑誌「通販生活」では、信頼できる暮らしの道具を厳選して販売するとともに、戦争や災害に苦しむ子どもたちの救援活動に取り組んでいます。

【子どもの平和と生存のための童話館基金】

童話館グループは、長崎市にある絵本・子どもの本を専門に扱う会社です。2001年、童話館の創業20周年記念として、「子どもの平和と生存のための童話館基金」が設立されました。

【「サダコ」・虹基金】

原爆の子の像のモデル佐々木禎子さんと同じ病院で過ごした故・大倉記代さんが、絵本『想い出のサダコ』出版をきっかけに2006年3月に設立した基金です。

【医療法人社団スマイル スマイルこどもクリニック】

小児救急施設の不足が深刻な社会問題となる中、2001年に開院された夜間・休日診療している小児クリニックです。イラク難民キャンプでの健康診断、子どもたちの手術費の援助など様々な支援を行っています。

【認定NPO法人 日本国際ボランティアセンター（JVC）】

1980年、カンボジアやラオス、ベトナムでたくさんの難民が生まれた際、タイの難民キャンプに駆けつけた日本の若者たちにより誕生しました。現在、アジア、アフリカ、中東で活動しています。

【認定NPO法人 日本チェルノブイリ連帯基金（JCF）】

1991年1月、チェルノブイリ原子力発電所事故被災者への医療支援を目的として設立されました。イラクでの小児がん支援や、福島第一原発事故後からは放射能測定を継続し、現在はウクライナ西部や、ポーランド、ブルガリアでのウクライナ避難民支援も行っています。

ご支援いただいた皆さまの紹介（敬称略）

◆Coffee for peace！運営協力

株式会社キャメル珈琲／古茂田工業株式会社／社会福祉法人東京都手をつなぐ育成会 新宿区立高田馬場福祉作業所／fushigina／SEO株式会社

◆ファンドレイジングサービス

TMコミュニケーションサービス株式会社（お宝エイド）／株式会社ブギ（古本チャリティ募金）／gooddo 株式会社（gooddo）／ソフトバンク株式会社（つながる募金）／株式会社STYZ（Syncable）／ピープルポート株式会社（ZERO PC 想うプロジェクト）

◆ご寄付

大口のご寄付をいただいた企業・団体を掲載しております。ご支援を賜りましたすべての皆様に、深く感謝申し上げます。

・チョコ募金（10,820件）

株式会社アルソア慧央グループ／ビア&カフェ BERG／自然派くらぶ生活協同組合／札幌イラクチョコ募金の会／大王製紙株式会社／認定NPO法人日本チェルノブイリ連帯基金（JCF）／学びい舎英語塾／ゴスペルスパークル／NPO法人WE21ジャパンこうほく／旭松食品株式会社／（株）エスコポーレーション／子どもの平和と生存のための童話館基金／株式会社ミズ／NPO法人WE21ジャパンかながわ／NPO法人WE21ジャパンつるみ／株式会社カタログハウス／NPO法人WE21ジャパンさかえ／さくら診療所／静岡西部健康友の会／医療法人共生会介護老人保健施設光の森

・ご寄付（3,678件）

株式会社カタログハウス／生活協同組合パルシステム東京（平和カンパ）／栗友会／新制作協会彫刻部／全国友の会／有限会社エリコ通信社／NPO法人WE21ジャパンこうほく／NPO法人WE21ジャパンちがさき／学びい舎英語塾／NPO法人WE21ジャパン伊勢原／テンボデザイン事務所

2022年度年次報告書

2023年7月30日発行

特定非営利活動法人 JIM-NET（ジムネット）

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場4-4-11 内藤ビル2C

電話：03-6228-0746 E-mail：info-jim@jim-net.net

寄付金振込先：ゆうちょ銀行振替口座 00540-2-94945 加入者名 日本イラク医療ネット
他行からのお振込の場合：

預金種目 当座 店名 ○五九店（○は漢数字のゼロ）口座番号 0094945

<http://jim-net.org/>

